



- ①大刀形 ②盾形 ③冴さ(矢を入れる道具)形 ④盾形 ⑤穀形 ⑥巫女 ⑦大刀形 ⑧盾形
 ⑨家形(今回復元) ⑩穀形 ⑪盾形 このほか、力士や動物埴輪などが見つかっています。



[天王森古墳墳丘]

【コラム 下松に移り住んだヤマトの将軍】

雄略天皇のころ、朝鮮半島にあった新羅に派遣された将軍に小鹿火宿禰(おかのすくの)という人物がいます。

一緒に派遣された紀小弓宿禰(きのおゆみのすくの)が戦いの途中で亡くなり、小鹿火宿禰は、紀小弓宿禰を弔うために新羅から帰国しました。その後、都怒国(今の下松市周辺)に住むことを願い出て、そのときから都怒臣(つのおみ)と名乗ったと、最古の歴史書「日本書紀」に記されています。

都怒国は瀬戸内航路の重要拠点として早くからヤマト王権とかわりを持っていたと考えられています。小鹿火宿禰も天然の良港を有するこの地域を重要と考えて、移り住んだのかもしれませんが。

インターネットで下松市の歴史や文化を学ぼう！

下松市
郷土資料・文化遺産
デジタルアーカイブ



下松市 郷土資料 検索

下松市教育委員会生涯学習振興課 TEL 0833-45-1870

〒744-8585 山口県下松市大手町3丁目3番3号

西日本有数の形象埴輪群 下松市天王森古墳出土

いえ がた はに わ
 家形埴輪Ⅰ

天王森古墳の 家形埴輪

大きな破風を持つ切妻屋根の家形埴輪で、高さ約70cm、幅約80cmの大きさです。円柱状の堅魚木(鯉木)を6本棟上に配し、妻側の破風に突起を取り付けて棟木を表現しています。

平側の正面は4本の柱で3間分の柱間を表現しているのに対して、背面は左右に窓をあけ、同じく3間の壁を表していると考えられます。妻側の突帯は壁の上の梁と考えられますが、円形の切り抜き(透孔)は写実的な造作ではないでしょう。

このように建物の3面(妻側2面と平側1面)に壁があり、平側1面に柱が並ぶ開放的な姿をした家形埴輪は、国内でこれまでに例がなく大変珍しいものです。切妻屋根の家形埴輪は天王森古墳の築かれた6世紀前半には主たる建物として並べられることが少ないことから、この建物は特別な意味があったと考えられます。

多くの種類の埴輪が良好な状態で残っていた天王森古墳ですが、馬形埴輪は見つかっていません。このことを考え合わせると、この建物は、例えば厩舎などを表している可能性があります。この建物を用意することで、古墳の被葬者が当時大変貴重な馬を所有していた、あるいは儀式に参列させていたことを表現しているのかもしれませんが。

天王森古墳からは、この家形埴輪のほか全く形状の異なる2点以上の家形埴輪が出土しています。また、過去には馬具が出土したと伝えられています。下松市では天王森古墳以外にも惣ヶ迫古墳、常森1号墳から家形埴輪が出土しています。

▼ 横(妻側)から



▼ 正面(平側)から



▼ 発掘時の様子



▼ 反対面

